

令和2年度 調布市立北ノ台小学校 学校評価報告書（学校長 箱崎 高之）

学校の教育目標	
○思いやりのある子ども ○よく考える子ども ○明るく元気な子ども	
目指す学校像(ビジョン)	
目指す学校像 【ごきげんな学校】 (1) 児童にとって 「よこびのある毎日」 ・学んで分かるよこび ・自分の成長が実感できるよこび ・自分の存在が認められるよこび ・将来に希望がもてるよこび (2) 保護者、地域にとって 「安心して任せられる学校」 ・開かれた学校 ・教育活動の積極的な発信 ・素早く、丁寧で誠実な対応 ・協力、協働の意識で ・一緒に悲しみ、悩み、喜び (3) 教職員にとって「ごきげんな職場」 ・一人で抱え込まずに組織的な対応 ・教師も学び、切磋琢磨する ・コミュニケーションを密に ・創造的な取組 ・職に誇りと責任を	

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>

	1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
自己評価	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組
	①「みんなのきまり」を基に全教職員による一貫した、ルールの遵守、挨拶、正しい言葉遣いの指導を行う。	①休校による授業時数削減分を土曜授業日の設定、時程の見直しで補うとともに、指導計画を適切に見直す。学習に遅れが生じた児童を対象に放課後学習教室を実施する。	①調布市立学校における感染症予防ガイドラインを全教職員に確実に理解させ、学校全体でガイドラインに基づく指導を徹底する。
	②いじめについて考える授業を全学級で各学期1回、年間で3回行う。	②児童の目的意識を大切に、主体的・対話的で深い学びを実現する授業を実施する。	②オリ・パラ委員会を月1回開催し、意図的計画的なオリ・パラ教育を実践する。
	③靴箱の靴を揃えることや清掃の指導を充実させ、さわやかな環境を整える。	③年間9回の校内研究で国語(書くこと)の指導力を向上させる。	③ねらいを明確にし、運動量を確保した体育授業を行う。
	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)
	①児童アンケート「すすんで挨拶している」85点以上→87点 保護者アンケート「すすんで挨拶ができてきている」80点以上→79点	①各学年の年間授業時数を標準時数の95%以上確保し、指導計画の見直しと放課後学習教室の実施により学び残しを0にする。→97%	①保護者アンケート「健康を保つための指導をしている」85点以上→88点
②児童アンケート「いじめをしないで仲良く」95点以上→92点 保護者アンケート「子供たちが安心して生活できる」85点以上→88点	②児童アンケート「すすんで学習している」80点以上→80点 教員評価「対話を取り入れた授業」80点以上→65点	②教員アンケート「オリ・パラ教育の実践」80点以上→57点	
③教員評価「靴箱・清掃」80点以上→79点 児童アンケート「きまりを守った生活」90点以上→86点	③児童アンケート「書く力が高まった」80点以上→86点 教員評価「指導力が高まった」80点以上→84点	③児童アンケート「すすんで運動」90点以上→88点 教員アンケート「ねらいを明確にした体育授業」80点以上→76点	
者学評価関係	・学習規律が身に付いていて、学校全体が大変落ち着いている。挨拶もしっかりとできていて、いつ見ても靴箱内の靴が整然としまわれていて、気持ちが良い。指導が行き届いていることが分かる。	・休校による授業時間削減分は様々な工夫により取り戻せている。ICT機器を効果的に活用して、児童が授業に集中している。書く指導については、日頃の成果が随所にうかがわれた。	・感染症対策は十分に行われている。今年度は体育館の改修工事の影響やコロナ禍で十分に運動できなかったと思われるので、次年度は工夫して運動量を確保して行ってほしい。

学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>

	4 保護者・地域との連携	5 ICT機器を活用した授業改善
自己評価	(1) 取組目標(具体的方策)	(1) 取組目標(具体的方策)
	①HPを年間100回更新する。学校便り、学年便り月1回発行する。	①ICT機器を効果的に活用した授業を1日1コマ以上行う。
	②地域学校協働本部を生かして地域の教育力を活用する。	②年間計画に基づいたプログラミング教育を行う。
自己評価	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)
	①教員自己評価「HP更新、学校学年便り発行」70点以上→59点	①教員自己評価「ICT機器の効果的な活用」80点以上→69点
者学評価関係	②保護者アンケート「地域と協力した教育活動」90点以上→86点	②教員自己評価「プログラミング教育の実践」80点以上→56点
	・学校だよりの文面から、学校の様子がとてもよく分かる。ホームページの内容も工夫されている。 ・地域学校協働本部の動きが素晴らしい。協力的な地域の特性が十分に発揮されている。次年度も地域人材の更なる活用を期待している。	・ICT機器を効果的に活用した授業が多く、学校全体での積極的な取組が感じられる。児童が一人一台タブレットを持ち、楽しく学習している。プログラミング教育については、2年間研究してきたことを生かして今後も計画的に実践して行ってほしい。

人材育成・組織運営

自己評価	○授業力の向上 ・OJT(北翔塾)枠を新設、学びのペアによるOJTの実施で学び合い切磋琢磨する環境づくりができた。 ○校務分掌等の活性化 ・校務分掌組織を一新し、組織の運営を合理化することができた。 ○服務規律の徹底 ・職員の自己評価が94点となり、昨年度の84点を大きく上回った。 ○ワーク・ライフバランスの推進 ・在校時間に関する目標は、職員の自己評価が69点となり、昨年度から12点アップした。
者学評価関係	・学校全体が落ち着いているのは、教員の授業力向上によるところが大きい。授業研究を熱心に行っていることが、授業を見ていて分かる。 ・真面目に努力する教職員が多く、服務規律は十分に守られている。 ・教員が熱心なので、在校時間が長くなってはいないか。教職員の健康のためにも、地域の力を有効活用し、在校時間を減らして行ってほしい。

中期的な経営目標の達成状況

1	「あいさつ」を核とした基本的な生活習慣の定着については、取組の成果が上がり8割程度の達成率である。
2	主体的に学習に取り組む態度の育成については、教員が主体的、対話的で深い学びを実現する授業を目指したことで育まれつつある。
3	オリ・パラ教育の推進、基礎的な体力の育成・向上については、休校と体育館改修工事の影響もあり、十分に達成しているとは言えない。
4	児童の地域への帰属意識を育むことについては、地域行事がほぼ中止になったことで育むこと難しかった。
5	ICT機器を活用した授業改善については、一人一台タブレットを積極的に活用して推進している。
人・組	授業力の向上については、校内研究、OJTを充実させたことで確実に向上している。

次年度の重点課題

○主体的、対話的で深い学びを実現する授業改善のさらなる推進 ・一人一台タブレットの効果的な活用 ・校内研究、OJTの充実 ・校務改善によるワーク・ライフバランスの推進
--